

各 位

2021年11月4日  
ティアンドエス株式会社

## 2021年11月期 第3四半期 決算追加補足説明

～皆さまから頂いた質疑応答の共有～

この決算追加補足説明は、2021年10月15日(金)に公表した2021年11月期第3四半期決算発表以降において、株主、投資家の皆さまからのお問い合わせや、アナリスト、機関投資家の方々との1on1ミーティングにていただいた主なご質問をまとめ、その応答内容を共有するものです。ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

### <第3四半期の業績>

Q1:例年、第3四半期はそれほど伸びないと説明されていましたが、今回の第3四半期決算が好調だった理由を教えてください。

A1:当社の主力ビジネスはシステムの受託開発ですが、保守・運用サービスにおいては、技術者派遣の形態により行っているものもあります。その場合、稼働日の多寡が売上計上金額に影響を及ぼすことがあり、例年、夏季休暇を含む第3四半期は、稼働が落ちるため、他の四半期に比較すると売上金額が減少する傾向があります。

しかし、当四半期においては、当該減少影響を補う以上に受託開発業務が好調で、前年同期と比べ、全社ベースで20%の増収と32%の増益(経常利益)となりました。

また、技術者派遣業務においても、当年度前半の好調な技術者採用が奏功し、稼働日の減少に伴う売上減を相対的に抑え込む結果となりました。

Q2:東北大学との共同研究開発が追加されましたが、これまでの共同研究を含めた進捗状況を教えてください。

A2:2021年10月4日に、国立大学法人 東北大学 工学研究科 遠藤研究室との間において、「物体認識向け AI プロセッサにおける高効率高性能アルゴリズムの研究」に関する共同研究契約を新たに締結したことを、公表しております。これは、従来、同大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター(CIES)との間で締結しております、2つの共同研究契約に続き、3本目の共同研究となるものです。

いずれの共同研究についても、次世代メモリの基礎及び応用研究として、ソフトウェアの分野で当社が担う研究を大学側と共同で行うものであり、現時点において、予定通り進捗しております。

Q3:先進技術ソリューションの伸びが顕著ですが、どのような業務が増えたのでしょうか。

A3:当カテゴリーでは、AI アルゴリズムの研究開発支援及び AI ソフトウェアの受託開発を行っております。このうち、AI アルゴリズムの研究開発支援業務が大きく伸長しており、特に、AI アルゴリズムに関する論文調査、及びその実装・評価業務のご依頼を多くいただいております。大手電機メーカーや精密機器メーカー、自動車関連メーカーなど、幅広い業種のお客様からの引き合いが増加し、当期の大きな増収につながっております。

Q4:当期から導入した従業員向けの業績連動賞与とは何ですか。

A4:当社にとって最大の財産は技術者をはじめとする人材です。優秀な人材の採用とパフォーマンスに対する適切な処遇は不可欠と考えております。

当期より、個人別の給与査定とは別枠で、あらかじめ設定した社内目標を上回る利益金額に対し、通常賞与の追加分として、従業員向けの業績連動賞与を支給する方針を定め、当第3四半期時点で45百万円を引当計上しております。なお、当該業績連動賞与計上前の営業利益率は16%、計上後の営業利益率は14%となっております。

#### <今後の業績予想>

Q5:当第3四半期までの業績が好調で、通期業績予想についても上方修正していますが、業績達成の確度について教えてください。

A5:現時点においては、当期末(11月末)までの受注状況は概ね確定しており、発表済みの業績予想の達成は相当程度確実と考えております。

通期予想に対する、第3四半期までの累計売上高の進捗率は73%です。したがって、残りの第4四半期において27%の売上高を見込んでおりますが、これは前期の進捗状況と同一の水準であり、当社の季節変動状況と合致しております。

Q6:今回大幅な上方修正を発表しましたが、当初の予想に織り込んでいなかった理由や背景について教えてください。

A6:当初の業績予想は、前期の決算発表時(2021年1月14日)であり、この時点で入手可能な情報に基づき、算定いたしました。その後、新型コロナウイルス感染症の状況変化等に伴い、未確定であった案件の受注が進み、また技術者の採用も順調に進んだこと、当社の主要取引先である半導体メーカーからの大型受注があったこと等により、当初業績予想を大きく超える変更が生じたため、上方修正の発表に至りました。

Q7:来期以降の見通しについて教えてください。

A7:来期以降における、当社を取り巻く経済環境に、大きな変化はありません。当社の主要顧客における投資意欲は引き続き旺盛であり、来期以降への継続が期待される大型案件の引き合いも増加しております。当社における技術者の採用が計画通り進捗することにより、業績についても相応の結果が出せるものと考えております。

以上